

# ヤマト政権から日本へ

ヤマト政権は、663年、唐・新羅の連合の前に大敗を喫した。この敗北を大きな契機に、ヤマト政権は中国に倣った法体系を整備するなど、支配体制の見直しを急いだ。支配体制は、天武天皇によってさらに強化されていく。天武は国史の編纂で支配の正当性を主張し、また、「天皇」「日本」号の使用を開始したとされる。

## ○ 敗戦と体制の見直し（斉明天皇～天智天皇の代）

### ● 史上初の重祚

孝徳天皇の死後、退位した皇極天皇が再び即位して（重祚）、  
 (1) \_\_\_\_\_ となった。

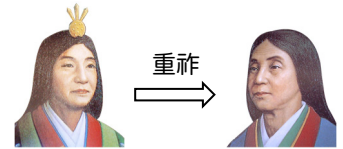


図1 皇極天皇・斉明天皇

### ● 蝦夷の帰順

658年、日本海側の(2) \_\_\_\_\_ を従わせるために、  
 (3) \_\_\_\_\_ が秋田・津軽方面に派遣された。

⇒(3) は北方の(2) を従えることに成功した。

◇(2) …ヤマト政権の進出に抵抗する東北地方の人々の呼称、  
 『宋書』倭国伝に載る「毛人」のことか!?



図2 阿倍比羅夫の行程

### ● 半島の情勢変化と百済の再興支援

660年、唐・新羅の連合軍が(4) \_\_\_\_\_ を滅ぼした。

→ヤマト政権が(4) の再興支援をすることで、  
 朝鮮半島への影響力を回復できるかもしれない。

⇒斉明天皇は軍を率いて出兵した。

↓  
 斉明天皇が九州で没したため、(5) \_\_\_\_\_ が即位せずに  
 天皇の代わりに務めて（称制）、軍の指揮を引き継いだ。

◇称制…役割は摂政に近いが、(5) の場合は天皇が不在

↓  
 663年、(6) \_\_\_\_\_

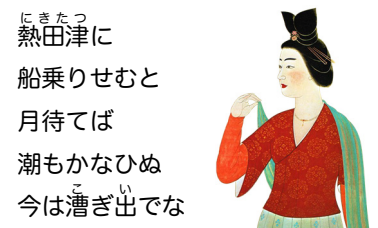
…ヤマト政権が唐・新羅の連合軍に敗れた戦い

⇒唐・新羅の追撃の恐れから、ヤマト政権は体制の再編強化を急いだ。

◇668年、唐・新羅の連合軍が高句麗を討滅



図3 白村江の戦い



（『万葉集』） 図4 額田王

### ● ヤマト政権の対外防衛

白村江の戦い後、次の①～④の対外防衛が整えられた。

- ①九州に兵士(7) \_\_\_\_\_ と狼煙用の施設 烽(8) \_\_\_\_\_ を設置
- ②現福岡県太宰府市に、長さ約1kmの土塁(9) \_\_\_\_\_ を築造
- ③九州に朝鮮式山城である(9) \_\_\_\_\_ ・基肄城・金田城を築城
- ④667年、宮都を飛鳥から(10) \_\_\_\_\_ に移動

◇③…百済の亡命貴族が技術指導して築城  
 ◇②③…九州にあった朝廷の出先機関大宰府の防衛が目的

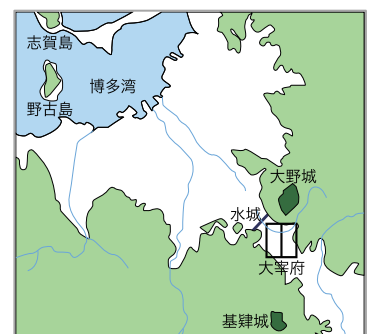


図5 対外設備の配置

## ●中大兄皇子の正式な即位

668年、中大兄皇子が正式に即位して、<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ となった。

## ●支配体制の再編と強化

白村江の戦い後、対外防衛とともに支配体制の再編強化が目指された。

①668年、中国の「律令」に倣い、<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ という令（行政法など）を編纂

②670年、民衆と土地の管理のために、最初の戸籍<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ を作成



図6 百人一首の筆頭歌

## ○天皇の権威強化（天武天皇～持統天皇の代）

### ●皇位継承問題と中央集権化

672年、<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_

…天智の弟<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ と子<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ が皇位をめぐる争った内乱、(15)の勝利で終結

→(15)が宮都<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ で即位して<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ となった。

⇒(16)側の豪族が没落、また、武力による大王の地位獲得で、

大王の権威が高まった、つまり中央集権化が進行した。

◇内乱の際の要所に、三関（鈴鹿関・不破関・愛発関）を設置

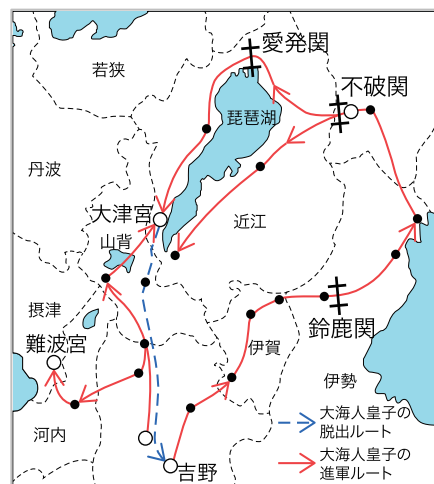


図7 壬申の乱と大海人皇子

### ●天皇と日本の成立！？

天武は国史を編纂して、支配の正当性を強化しようとした。

⇒その際、自身の称号を「天皇」、ヤマト政権の国号を「日本」とした！？

◇伊勢神宮での皇祖神「天照大神」の祭祀はこの頃に開始か！？

### ●銭貨の铸造

天武は、日本最初の铸造銭貨である<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ をつくらせた。

⇒流通は極めて限定的で、実際は厭勝銭（まじないの銭）に使用された。



図8 富本銭

### ●身分秩序の再編

①大化改新：氏ごとの勢力浮沈（蘇我氏衰退、中臣氏隆盛など）

②壬申の乱：大友皇子側の中央の豪族没落

⇒姓<sup>カバネ</sup>と実情<sup>かいはり</sup>の乖離（かつて氏ごとに賜与された姓≠現実の氏ごとの優劣）した。

↓ 実情に合わせて再度賜与

684年、<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ 制定

…姓を上から順に、真人・朝臣・宿禰・忌寸・道師・臣・連・稻置に再編

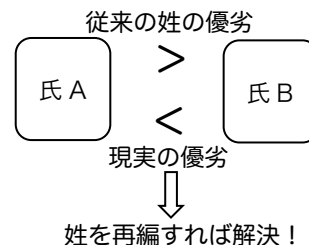


図9 八色の姓の必要性

### ●天武の諸政策の引継ぎ

天武の死後、皇后<sup>こうごう</sup>が即位して<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ となり、政策を引き継いだ。

①689年、<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ 施行（編纂開始は天武天皇の在位中）

②690年、<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ 作成

③694年、<sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ へ遷都（中国に倣った<sup>(25)</sup> \_\_\_\_\_ と呼ばれる区画をもつ都）

◇京…大王（天皇）などが住む「宮」の区域と、条と坊による区画で構成される都